

漢文「重要語の読み・意味」100題ドリル 解答編

無料ダウンロード（縦書き・印刷可）

Q1. 答え…けだし 解説…文頭の「蓋」は「けだし」と読み、「思うに・おそらく」と自分の推量・意見を述べる合図です。書き下しは「蓋（けだ）し君子は器ならず」。

Q2. 答え…思うに（おそらく） 解説…「けだし」は推量・私見を示し、「思うに・おそらく」の意。書き下し「蓋（けだ）し此（こ）の理（ことわり）有らん」、訳「思うに、こういう道理があるのだろう」。

Q3. 答え…なんぞゝざる 解説…「盍」（「蓋」を同じ用法で使うこともある）は「なんぞゝざる」と読み、「どうしてゝしないのか」とやんわり勧める言い方。書き下し「盍（なん）ぞ各（おのおの）爾（なんぢ）の志（こころざし）を言はざる」。

Q4. 答え…かつ 解説…並列・添加の「且」は「かつ」と読み、「その上・また」の意。書き下し「貧しく且（か）つ賤（いや）し」、訳「貧しく、その上身分も低い」。

Q5. 答え…その上・さらに（また） 解説…「かつ」はものごとを付け加える語で「その上・さらに」。書き下し「智あり且（か）つ勇あり」、訳「知恵があり、その上勇氣もある」。

Q6. 答え…それ 解説…文頭の「夫」は発語で「それ」と読み、「そもそも・いったい」と話を切り出す合図。書き下し「夫（そ）れ仁者は人を愛す」。

Q7. 答え…そもそも（いったい） 解説…発語の「それ」は「そもそも・さて」の意で、訳に必ず出さなくてもよい軽い語。書き下し「夫（そ）れ学は以（もつ）て已（や）むべからず」。

Q8. 答え…およそ 解説…「凡」は「およそ」と読み、「総じて・だいたい・すべて」とまとめる語。書き下し「凡（およ）そ学を為（な）すの道」。

Q9. 答え…総じて・だいたい（すべて） 解説…「およそ」は「総じて・だいたい」。数の前では「全部でおよそ」の意にもなる。書き下し「凡（およ）そ百余人」、訳「全部でおよそ百人あまり」。

Q10. 答え…いかん（これをいかにせん） 解説…「如・奈・若」が先に来る「如何・奈何・若何」は「いかん」と読み、方法・手段・理由をたずねる。「如之何」は「之（これ）を如何（いかん）せん」＝これをどうしたらよいか。

Q11. 答え…いかん 解説…「何」が先の「何如」は「いかん」と読み、状態・程度・よしあしをたずねる。書き下し「今日（こんにち）の事何如（いかん）」、訳「今日のことはどんなようすか」。

Q12. 答え…どうであるか（状態・程度をたずねる） 解説…「何如」は状態・程度・評価をたずね「どうであるか・どんなものか」。書き下し「其（そ）の人何如（いかん）」、訳「その人はどんな人物か」。語順が逆の「如何」は方法・理由を問う点と区別。

Q13. 答え…いかん（何をいかんせん） 解説…「奈何」も「いかん」。間に語をはさむ「奈何何」は「何を奈何（いかん）せん」の形。書き下し「天下を奈何（いかん）せん」、訳「天下をどうしたらよいか」。

Q14. 答え…ゆゑん 解説…「所以」は「ゆゑん」と読み、「理由・わけ」、文脈により「～する方法・手段」。書き下し「此（こ）れ其（そ）の敗るる所以（ゆゑん）なり」、訳「これが負けた理由である」。

Q15. 答え…理由・わけ（または～する方法） 解説…「ゆゑん」は基本「理由・わけ」。「～する手段・方法」の意になることもある。書き下し「民の安んずる所以（ゆゑん）なり」、訳「民が安らかである理由（わけ）である」。

Q16. 答え…ここをもつて 解説…「是以」はひとまとまりで「ここをもつて」と読み、「だから・こういうわけで」と前を受けて結論につなぐ。書き下し「是（ここ）を以（もつ）て君子は之（これ）を慎（つつし）む」。

Q17. 答え…いへども 解説…「雖」は「～といへども」と読み、逆接「～だけれども・～とはいっても」。書き下し「良田有りと雖（いへど）も」、訳「よい田があるとはいっても」。上の語から返って読む。

Q18. 答え…～だけれども・～とはいっても（逆接） 解説…「雖」は逆接・譲歩を表す。例「過ちありと雖（いへど）も改むるに憚（はばか）ること勿（なか）れ」のように「～であっても」とも訳す。

Q19. 答え…と 解説…二つを並べる「A与B」の「与」は「と」と読む。書き下し「父と母と」。最も多い用法。

Q20. 答え…ともに 解説…「いっしょに」の意の「与」は「ともに」。書き下し「衆と与（とも）に樂しみを同じくす」または「与（とも）に樂しむ」。訳「みんなといっしょに樂しむ」。

Q21. 答え…味方する・賛成する(仲間になる) 解説…目的語をとって動詞で使う「与」は「くみす」と読み「味方する・賛成する」。書き下し「天之(これ)に与(くみ)せず、訳「天はその者に味方しない」。

Q22. 答え…か 解説…文末の「与」は「歟」と同じで「か」と読み、疑問・反語を表す。書き下し「是(こ)れ誰(た)が過(あやま)ちか、訳「これは誰の過ちか」。

Q23. 答え…あたふ(あたう) 解説…「あたえる」の意の「与」は「あたふ」。書き下し「之(これ)に千金を与(あた)ふ、訳「その人に千金を与える」。

Q24. 答え…より 解説…起点を表す「自」は「より」と読み「くから」。書き下し「朋(とも)有り遠方(ゑんぱう)より来(きた)る、訳「友が遠くからやって来る」。下から返って読む。

Q25. 答え…みづから 解説…「自分で・自分自身を」の意の「自」は「みづから」と読む。書き下し「自(みづか)ら知る者は明なり、訳「自分を知る者は聡明だ」。同じ字でも『よ』と読み分ける。

Q26. 答え…より 解説…「從」も起点で「より」と読み「くから」。書き下し「此(こ)の道より行く、訳「この道から行く」。なお「從ふ(したがふ)」と読む別用法もある。

Q27. 答え…すなはち 解説…「即」は「すなはち」と読み、「すぐに・とりもなおさず」の気持ち。書き下し「之(これ)を聞きて即(すなは)ち行く、訳「それを聞いてすぐに行く」。

Q28. 答え…くならば(そのときは) 解説…「則」は「すなはち」と読み、前を受けて「くならば・そのときは」と条件・帰結をつなぐ。書き下し「学べば則(すなは)ち惑(まど)はず、訳「学べば(そのときは)迷わない」。

Q29. 答え…あひ 解説…副詞の「相」は「あひ」と読み、「たがい」に、または動作が一方から相手に及ぶことを示す。書き下し「兄弟相(あひ)助く、訳「兄弟がたがいに助け合う」。

Q30. 答え…たがいに(または、その相手に) 解説…「相(あひ)」は「たがいに」が基本だが、「相手に対して」と一方向を示すこともある。書き下し「久しく相(あひ)見ず、訳「長い間会っていない」。

Q31. 答え…る・らる(くされる) 解説…動詞の前に置く「見」は受身を表し、送り仮名「る・らる」で読む。書き下し「年四十にして悪(にく)まる、訳「四十歳になって(人から)憎まれる」。「見+動詞」＝「くされる」。

Q32. 答え…まみゆ 解説…目上の人に「お目にかかる」「対面する」意の「見」は「まみゆ」と読む。書き下し「孟子梁の恵王に見（まみ）ゆ」、訳「孟子が梁の恵王に拝謁する」。

Q33. 答え…なす 解説…動詞「する・行う・つくる」の「為」は「なす」。書き下し「善を為（な）すは最も樂し」、訳「善い行いをするのが最も楽しい」。

Q34. 答え…たり 解説…「AはBである」と断定する「為」は「たり」と読む。書き下し「子（し）は王者の師為（た）り」、訳「あなたは王者の師である」。

Q35. 答え…ゝのために 解説…前置詞の「為」は「ため（に）」と読み「ゝのために」。書き下し「君が為（ため）の計（はかりごと）」、訳「あなたのためのはかりごと（策）」。

Q36. 答え…る・らる（ゝされる） 解説…「為A所B」は「AのBする所と為（な）る」と読み、受身「AにBされる」を表す。書き下し「人の制する所と為（な）る」、訳「人に支配される」。

Q37. 答え…いづれ 解説…二つ以上をくらべて「どちらが」と問う「孰」は「いづれ」と読む。書き下し「父と母と孰（いづ）れか親しき」、訳「父と母とどちらが親しいか」。

Q38. 答え…どちらが（だれが） 解説…「孰」は「どちらが・だれが」と選択・比較を問う。書き下し「二者孰（いづ）れか愈（まさ）れる」、訳「両者のうちどちらが優れているか」。

Q39. 答え…いづくんぞ 解説…反語・疑問の「安」は「いづくんぞ」と読み「どうしてゝか（いやゝない）」。書き下し「安（いづ）くんぞ魚の樂しみを知らんや」、訳「どうして魚の樂しみが分かるうか」。

Q40. 答え…いづくんぞ 解説…「悪」も反語で「いづくんぞ」と読む（「にくむ・わるい」とは別用法）。書き下し「悪（いづ）くんぞ然らざるを得（え）ん」、訳「どうしてそうならずにいられようか」。

Q41. 答え…いづくんぞ 解説…文頭の「焉」は反語で「いづくんぞ」と読む。書き下し「焉（いづ）くんぞ仁を得（え）ん」、訳「どうして仁といえようか（いえはしない）」。文末では置き字・「これ」となる別用法に注意。

Q42. 答え…むしろ 解説…選択して「いつそ・どちらかといえば」の意の「寧」は「むしろ」と読む。書き下し「寧（むし）ろ鶏口（けいこう）と為（な）るも」、訳「いつそ鶏のくちばし（小集団の長）になつても」。

Q43. 答え…いつそ（むしろ）ゝのほうがよい 解説…「むしろ」は二つを比べて一方を選び取る語で「いつそゝのほうがよい」。書き下し「寧（むし）ろ死すとも屈せず」、訳「いつそ死んでも屈服しない」。

Q44. 答え…なかれ 解説…禁止の「勿・莫・無・母」は「なかれ」と読み「ゝするな」。書き下し「己(おの)れの欲(ほつ)せざる所、人に施(ほどこ)すこと勿(なか)れ、訳「自分が望まないことを人にしてはならない」。

Q45. 答え…なかれ 解説…禁止の「莫」は「なかれ」と読み「ゝするな」。書き下し「道(い)ふこと莫(なか)れ君が行くこと早しと」、訳「言ってくれるな、君の出発が早いなどと」。「莫」なし(存在しない)の用法もある。

Q46. 答え…あへて 解説…「敢」は「あへて」と読み、「無理に・しいて」。反語「敢へてゝざらんや」で「どうしてもしないでいられようか」。書き下し「敢(あ)へて命に従はざらんや」、訳「どうしても命令に従わないでいられようか」。

Q47. 答え…もとより 解説…副詞の「固」は「もとより」と読み「もともと・元来・言うまでもなく」。書き下し「臣(しん)固(もと)より王の忍びざるを知る」、訳「私はもともと王が忍びないお気持ちであることを知っている」。

Q48. 答え…ごとに 解説…「毎」は「ごとに」と読み「ゝのたびに・ゝごとに」。書き下し「佳節(かせつ)に逢(あ)ふ毎(ごと)に」、訳「めでたい節句にめぐりあうたびに」。

Q49. 答え…ことごとく 解説…「悉」は「ことごとく」と読み「すべて・残らず」。書き下し「力を悉(ことごと)くして以(もつ)て赴(おもむ)く」、訳「力のすべてを尽くして向かう」。同義に「咸・尽・皆」。

Q50. 答え…みな 解説…「皆」は「みな」と読み「すべて・全員」。書き下し「兄弟皆(みな)在り」、訳「兄弟はみな(無事で)いる」。

Q51. 答え…かつて 解説…経験を表す「嘗」は「かつて」と読み「以前に・以前ゝしたことがある」。書き下し「吾(われ)嘗(かつ)て終日食らはず」、訳「私は以前、一日中食べなかったことがある」。

Q52. 答え…いまだかつてゝず 解説…「未嘗」は「いまだかつてゝず」と読み「今までに一度もゝない」。再読文字「未」+「嘗」。書き下し「未(いま)だ嘗(かつ)て有らざるなり」、訳「今まで一度もなかった」。

Q53. 答え…まさに 解説…副詞の「方」は「まさに」と読み「ちょうど・今まさに」。書き下し「方(まさ)に今の時」、訳「ちょうど今の時代」。再読文字「方(まさ)にゝんとす」とは形で区別。

Q54. 答え…すなはち 解説…「乃」は「すなはち」と読み「そこで・なんと・やっと」と、意外性や時間の流れを表す。書き下し「乃(すなは)ち前非を悟る」、訳「そこで(やっと)以前のあやまちを悟る」。

Q55. 答え…つひに 解説…「遂」は「つひに」と読み「とうとう・そのまま」。書き下し「遂（つひ）に大業を成す」、訳「とうとう大事業を成しとげた」。

Q56. 答え…こひねがはくは 解説…願望の「庶幾」は「こひねがはくは」と読み「どうかしてほしい・なんとかくしたい」。書き下し「庶幾（こひねが）はくは之（これ）を改めん」、訳「どうかこれを改めたい」。

Q57. 答え…る・らる（ゝされる） 解説…受身を表す「被」は送り仮名「る・らる」で読む。書き下し「忠にして謗（そし）られ、訳「誠実であるのにそしられる」。「被＋動詞」で「ゝされる」。

Q58. 答え…置き字（ゝより／＼においての関係を示す） 解説…「於・于・乎」は多く置き字で読まないが、「ゝより／＼において／＼に」という関係を補う。書き下し「青は之（これ）を藍（あゐ）より取る」、訳「青色は藍から取る」。比較では「より」の意。

Q59. 答え…これ 解説…目的語に立つ代名詞の「之」は「これ」と読む。書き下し「学びて時に之（これ）を習ふ」、訳「学んでは適切なときにそれを復習する」。連体修飾の「ゝの」、動詞「ゆく」の用法もある。

Q60. 答え…ゆく 解説…動詞の「之」は「ゆく」と読み「行く」。書き下し「牛何（いづ）くにか之（ゆ）く、訳「牛はどこへ行くのか」。代名詞「これ」・助詞「の」と区別。

Q61. 答え…それ 解説…文頭の「其」は語調を整え、推量・反語・願望を強める。書き下し「其（そ）れ真（しん）に馬無きか」、訳「いったい本当に名馬はいないのか」。多くは「それ」と読む。

Q62. 答え…置き字（順接「そして」・逆接「しかし」をつなぐ） 解説…「而」は接続の置き字で、ふつう読まずに送り仮名（ゝて・ゝども）に現れる。書き下し「学びて思はざれば則（すなは）ち罔（くら）し」、訳「学んでも考えなければ（道理に）くらい」。

Q63. 答え…なんぢ 解説…二人称の「而」は「なんぢ」と読み「おまえ・あなた」。書き下し「余（よ）而（なんぢ）の罪無きを知るなり」、訳「私はおまえに罪がないことを知っている」。接続の「而」と区別。

Q64. 答え…なんぢ 解説…二人称「汝」は「なんぢ」と読み「おまえ・あなた」。書き下し「汝（なんぢ）之（これ）を知るか」、訳「おまえはこれを知っているか」。同義に「爾・若・而」。

Q65. 答え…われ（わが） 解説…一人称「吾」は「われ」、連体では「わが」。書き下し「吾（われ）日（ひ）に三たび吾（わ）が身を省（かへり）みる」、訳「私は毎日何度も我が身を反省する」。

Q66. 答え…**これをくか（之乎の合音）** 解説…文末の「諸」は「之乎（これをくか）」をまとめた合音で「これをくか」と読む。書き下し「諸（これ）有りや」、訳「そういうことがあるか」。文中では「これをくに」となる用法もある。

Q67. 答え…**なり** 解説…文末で断定の「也」は「なり」と読み「くである」。書き下し「是（こ）れ仁なり」、訳「これが仁である」。疑問・反語の文末では「や・か」と読む。

Q68. 答え…**「もの」と読む（くはと主題を示す）** 解説…「者」は「もの」と読んで「くという人・くするもの」を表し、主題「くは」を示す。書き下し「仁者（じんしゃ）は人を愛す」、訳「仁の人は人を愛する」。条件句末では「くは」と読む。

Q69. 答え…**置き字（文末で断定・完了の語気を添える。読まない）** 解説…文末の「矣」は置き字で読まず、断定・完了の語気を添えるだけ。書き下し「過（あやま）てり」、訳「あやまちである・しくじった」。書き下しに「矣」の字は書かない。

Q70. 答え…**置き字（断定・強調の語気を添える。読まない）** 解説…文末の「焉」は置き字で読まず、語気を添える。書き下し「衆之（これ）を好むも必ず察す」、訳「多くの人が好んでも必ずよく調べる」。文頭の反語「いづくんぞ」とは別。

Q71. 答え…**ごとし** 解説…比況の「如」は「ごとし」と読み「くのような」。書き下し「大賓（たいひん）を見るが如（ごと）し」、訳「大切な客に会うかのような」。同義に「若（ごと）し」。

Q72. 答え…**もし** 解説…仮定の「若」は「もし」と読み「もしくならば」。書き下し「若（も）し過ち有らば則（すなは）ち之（これ）を改む」、訳「もし過ちがあれば改める」。「ごとし」「なんぢ」と読む用法もある。

Q73. 答え…**たとひ** 解説…譲歩の「縦」は「たとひ」と読み「たとえくでも」。書き下し「縦（たと）ひ我を殺さずとも」、訳「たとえ私を殺さないとしても」。後に逆接が続くと予想して読む。

Q74. 答え…**なかりせば** 解説…仮定の「微」は「なかりせば」と読み「もしくがなかったら」。書き下し「微（な）かりせば管仲（くわんちゅう）、吾（われ）其（そ）れ髪を被（かうむ）り左衽（さじん）せん」、訳「もし管仲がいなかったら、私は（異民族のように）ざんばら髪で左前の服を着ていただろう」。

Q75. 答え…**なし** 解説…存在の否定「無」は「なし」と読み「くがない」。書き下し「心に二用無し」、訳「心は二つのことを同時には用いられない」。禁止で「なかれ」と読む用法もある（無〓勿）。

Q76. 答え…あらず 解説:「AはBにあらず」と否定する「非」は「あらず」と読む。書き下し「我(われ)生まれながらにして之(これ)を知る者に非(あら)ず」、訳「私は生まれつき道理を知る者ではない」。

Q77. 答え…いまだらず 解説:再読文字「未」は「いまだらず」と読み「まだくない」。一度目「いまだ」、二度目「ず」。書き下し「未(いま)だ生を知らず、焉(いづ)くんぞ死を知らん」、訳「まだ生も分らない、どうして死が分ろうか」。

Q78. 答え…まさにくんとす 解説:再読文字「将」は「まさにくんとす」と読み「ちようにくんとする・今にもくしそうだ」。書き下し「天将(まさ)に大任を降(くだ)さんとす」、訳「天が今にも大きな使命を授けようとしている」。

Q79. 答え…まさにくべし 解説:再読文字「当」は「まさにくべし」と読み「当然くすべきだ・きつとくのはずだ」。書き下し「当(まさ)に大志を立つべし」、訳「当然大きな志を立てるべきだ」。

Q80. 答え…すべからくべし 解説:再読文字「須」は「すべからくべし」と読み「ぜひともくする必要がある」。書き下し「須(すべか)らく寸陰(すんいん)を惜(を)しむべし」、訳「わずかな時間もぜひ大切にすべきだ」。

Q81. 答え…よろしくべし 解説:再読文字「宜」は「よろしくべし」と読み「くするのがよい・くするのが適当だ」。書き下し「宜(よろ)しく早く之(これ)を図(はか)るべし」、訳「早めにこれに手を打つのがよい」。

Q82. 答え…なほくごとし 解説:再読文字「猶」は「なほく(の／が)ごとし」と読み「ちようにくと同じだ」。書き下し「過ぎたるは猶(な)ほ及ばざるがごとし」、訳「やりすぎは、ちように足りないのと同じだ」。

Q83. 答え…なんぞ 解説:理由を問う「何」は「なんぞ」と読み「どうしてくか」。書き下し「何(なん)ぞ去らざるや」、訳「どうして立ち去らないのか」。場所なら「いづくにか」、物なら「なにを」と読み分ける。

Q84. 答え…あに 解説:反語・詠嘆の「豈」は「あに」と読み、「豈にくや」どうしてくか(いやくない)、「豈にくずや」なんとくではないか」。書き下し「豈(あ)に痛ましからずや」、訳「なんと痛ましいことではないか」。

Q85. 答え…そもそも(それとも) 解説:選択・転換の「抑」は「そもそも」「あるいは(それとも)」と読む。書き下し「之(これ)を求めしか、抑(そもそ)も之を与(あた)へしか」、訳「(孔子が)求めたのか、それとも(人が)与えたのか」。

Q86. 答え…なけれ 解説…禁止の「母」は「なけれ」と読み「するな」。書き下し「過（あやま）てば則（すなは）ち改むるに憚（はばか）ること母（なか）れ」、訳「過ちがあれば改めることをためらうな」。

Q87. 答え…たまたま 解説…副詞の「適」は「たまたま」と読み「ちょうど・偶然」。書き下し「適（たまたま）其（そ）の怒りに会（あ）ふ」、訳「ちょうどその怒りに出くわす」。

Q88. 答え…ただ 解説…限定の「唯」は「ただ」と読み「ただうだけ」。書き下し「唯（た）だ利を是（こ）れ視（み）る」、訳「ただ利益だけを見る」。同義に「但・惟・徒」。

Q89. 答え…ひとり 解説…副詞の「独」は「ひとり」と読み「ただうだけ」、反語を強めて「いったい・あなただけは」。書き下し「子（し）独（ひと）り聞かずや」、訳「あなただけは聞いていないのか（いや、聞いているはずだ）」。

Q90. 答え…そのA（する）よりは（むしろB）。呼応する語は「寧（むしろ）」 解説…「与其A寧B」は「其（そ）のAせんよりは寧（むしろ）ろBせよ／Bせん」と読み、「AよりはむしろBのほうがよい」と選択を表す。書き下し「其の奢（おご）らんよりは寧（むしろ）ろ儉（けん）なれ」、訳「ぜいたくするよりはむしろ質素であれ」。

Q91. 答え…またうずや（なんとくではないか） 解説…「不亦A乎」は「亦（また）Aずや」と読み、「なんとAではないか」と詠嘆を表す。書き下し「学びて時に之（これ）を習ふ、亦（また）説（よろこ）ばしからずや」、訳「学んで適切なときに復習する、なんと喜ばしいことではないか」。

Q92. 答え…「ところ」と読み、下の動詞を名詞化する（するもの・こと） 解説…「所十動詞」は「ところ」と読み、その動詞を名詞化して「するもの・こと・場所」を表す。書き下し「己（おの）れの欲（ほつ）せざる所」、訳「自分が望まないこと」。「為る所」では受身を作る。

Q93. 答え…しかず（うに及ばない／うしたほうがよい） 解説…「不如A・不若A」は「Aにしかず」と読み、「Aに及ばない」Aのほうがよい」と比較・選択を表す。書き下し「百聞は一見に如（し）かず」、訳「百回聞くのは一度見るのに及ばない」。

Q94. 答え…しむ（うをして…しむ） 解説…使役の「使・令・遣・教」は「（うをして）…しむ」と読み「うに…させる」。書き下し「天帝我をして百獸に長たらしむ」、訳「天帝は私を百獸の長にならせた」。

Q95. 答え…ざるはなし（うしないものはない＝みなくする） 解説…「莫不A」は「Aせざるはなし」と読み、二重否定で「Aしないものはない＝すべてAする」。書き下し「死有らざるは莫（な）し」、訳「死なないものはない（すべて死ぬ）」。

Q96. 答え…なにをもつて（どうやって・どうして） 解説…「何以」は「なにをもつて」と読み、手段「どうやって」や理由「どうして」を問う。書き下し「何（なに）を以（もつ）て之（これ）を知る」、訳「どうやってそれを知るのか」。

Q97. 答え…しかり 解説…「そうだ・そのとおりだ」の意の「然」は「しかり」と読む。書き下し「対（こた）へて曰（い）はく、然（しか）り」、訳「お答えして言うには、そのとおりです」。「しかるに（逆接）」「しかうして」の用法もある。

Q98. 答え…しからばすなはち（それならば） 解説…「然則」は「しからばすなはち」と読み「それならば・そうであるなら」と前を受けて続ける。書き下し「然（しか）らば則（すなは）ち何如（いかん）」、訳「それならどうであるか」。

Q99. 答え…のみ 解説…文末の限定「已」は「のみ」と読み「くだけだ・くにすぎない」。書き下し「斯（か）くのごときのみ」、訳「このようであるだけだ」。「已（や）む」やめる「已（すで）に」の用法もある。

Q100. 答え…なし 解説…存在の否定の「莫」は「なし」と読む（比較で「これよりくなものはない」最上）。書き下し「天下焉（これ）より強きは莫（な）し」、訳「天下にこれより強いものはない」。禁止「なかれ」と区別。